

焰ひの國救くひの水脈

原作：ウイグル民謡 オウステン ナフシスイ Östeng Naxhisi

成田凜

ئۈستەڭنىڭ تېڭى قاتتىق ،	オウスタンムン	テエギカトゥウク
چايسا كىمەن ئۆتەيدۇ	チエプサ	カトゥエメン
زاسم تۇڭچىسى بەگلەر ،	ザーラム	トンチイン
بېشەزدىن كەتەيدۇ	ベグレエツ	
	ビシムドユン	キャットウメイドウ

オウステン ナフシスイ
これが「Östeng Naxhisi (川のうた)」という民謡ですとサリナさんが教えてくれる。今回は二人でイリイ地方に伝わる民謡を翻訳することに決まった。

この本はたまたまわたしが手元に持っていた本なのだ、こうして日本に持ってきておいてよかった、なんという偶然だ、とサリナさんが話す。イリイ地方、ウイグル語ではグルジャという。グルジャといえはいくつにも枝分かれする川と温和湿润な気候なのだそうだ。その川は天山山脈からカザフスタン東部のバルハシ湖に注ぎ込む

一八〇〇年頃 グルジャ

命を助ける水がある。人も馬も牛も羊もヤギも、生きとし生ける物たちは水が必要とする。例えば雪解け水はその一つである。世界で最も海から遠い國、砂漠の國、山の國、ここウイグルでは春の雪解け水は生き物の生活を支える天物であった。だが春が幾千回と巡り、人は大陸を駆け回り、大河を越え、砂漠を越え、山脈を越え、山を降り、平野に家を建て、あまねく地にその数を増やして暮らし住むようになった後では、雪解け水だけではすべてを潤すことは叶わなくなった。そしてまた、不断の雪を頂く天山山脈の地下にも命を助ける水が流れていた。これまで人は地下深くに流れる天の水脈へと